科目名	導入教育	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	永井里枝
		授業形態	演習		有		
（英）	Orientation	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	集中講義、火曜日/6.7限：対面

講師紹介	歯科衛生士として一般診療所にて豊富な実務経験を有する。2020年度より歯科衛生士専任教員となる。
目的	日本医歯薬専門学校の学生生活を円滑にスタートさせるための知識やスキルを身に着ける。
科目概要	専門学習に臨むにあたり、能動的学習の基礎および汎用的技能を身につける。
到達目標	日本医歯薬専門学校での学則、学校生活ルールについて理解できる。 Teamsを利用したオンライン授業の受講方法や資料の閲覧、保存方法、課題の提出方法を理解できる。 効果的な学習方法や試験のルールを理解することで学習へのモチベーションを維持・向上できる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	入学前から始める！歯科衛生士の基礎知識	事前事後学習とその内容	新入生オリエンテーションにて配布された各種配布物は保存・整理し、学校生活の手引きとして活用できるように管理すること。
参考図書			
特記事項	授業の詳細な指示は随時担任の指示を受ける。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	授業を受けるための準備を整える①	講義	Teamsについて ・アカウント管理 ・授業ツールとしての使用方法
2	授業を受けるための準備を整える②	講義	Teamsの実践 ・オンライン授業の受講方法、授業資料の閲覧と保存方法 ・小テストの実施方法、課題の提出方法
3	学校生活を安心して過ごすために①	講義	学生便覧の読み合わせ
4	学校生活を安心して過ごすために②	講義	1年生で学ぶ科目の内容やスケジュールの確認
5	学習するための準備を整える①	講義	学習へのモチベーションの持ち方
6	学習するための準備を整える②	講義	学習能力チェック
7	学習するための準備を整える③	講義	効果的な勉強方法について ・授業内容が理解できる授業の受け方 ・小テストの解答解説の仕方(復習方法)
8	中間テスト		筆記試験
9	学校生活をより楽しく過ごすために①	講義	クラスメイトとのコミュニケーションプログラム
10	学校生活をより楽しく過ごすために②	講義	夢を叶えるために必要なことを考える
11	学校生活をより楽しく過ごすために③	講義	夢を叶えるために必要なことを考える
12	学校生活をより楽しく過ごすために④	講義	これからの1年間について考える
13	学習の成果を確認するために①	講義	単位を修得するための方法について 定期試験のルールについて 成績簿の見方について
14	学習の成果を確認するために②	講義	定期試験に向けての振り返り
15	定期試験		筆記試験

科目名	コミュニケーションスキルアップ検定	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	花澤真里子
		授業形態	演習		有		
（英）	Communication skill up certificate	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	集中講義、木曜日/6.7限：対面

講師紹介	保有資格：2級キャリアコンサルティング技能士、メンタルヘルスマネジメント ラインⅡ種、AFP 国際線客室乗務員30年の経験を活かしたビジネスマナー、コミュニケーションを中心とした研修が得意である。JALでの客室訓練部教官経験を活かしJAL退職後の講師経験は14年以上で豊富な実務経験を有する。キャリアコンサルタントの資格を活かし、歯科医院での患者様対応研修、コミュニケーション研修、キャリアガイダンスや研修後のカウンセリングの豊富な実務経験を有する。
目的	歯科衛生士としてだけでなく、社会人として通用するコミュニケーション力を身に付ける
科目概要	①コミュニケーション力②基本的マナースキル などのスキルを習得する
到達目標	・コミュニケーションとは具体的に何かを理解し、その手法を身に付ける。 ・コミュニケーションスキルを上げるベースには、マナーのスキルが必要だという事を理解し行動できるようになる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　）

教科書	コミュニケーションスキルアップ検定	事前事後学習とその内容	授業終了後に、翌日からの「行動目標」を考えて記入する
参考図書			
特記事項	必要に応じて、パワーポイント資料を作成し使用する。		

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション コミュニケーションの定義 マナーとは	演習	自己紹介 コミュニケーションとマナーの関係 学校への電話のかけ方
2	第一印象を徹底的に上げる マナーの5原則 バーバルとノンバーバル	演習	1対1の会話 「話す」の基本
3	チームビルディング演習①	演習	コミュニケーションにおいての「安心」について
4	チームビルディング演習②	演習	チームへの働きかけ 協働をする
5	言葉遣い 頼み方・断り方	演習	実習・就職時に役立つ言葉遣い
6	話す・伝えるの手法	演習	報連相
7	電話対応 ビジネスメールの書き方	演習	基本を知り、ワークで身につける
8	定期試験		筆記試験

科目名	情報処理	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	野坂　まりえ
		授業形態	演習		有		
（英）	Information Processing	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	火曜日/6.7限：対面

講師紹介	滋慶学園グループのグループ企業(株)ブレーンスタッフコンサルタンツに所属しているラーニングマネージャーが、在学習・就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。グループ校でも多くの授業を担当し、豊富な実務経験を有する。 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化したオリジナルのe-learning（インターネット上のテキスト）を使用
目的	基礎的なネットリテラシー、画像編集、動画作成を学び、就職後に役立つSNSスキルを習得する
科目概要	Canvaを利用して簡単な画像や動画の編集ができるようになる。
到達目標	・Canvaのアプリを活用して、画像編集、動画作成ができる
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　■実技試験　□その他（　　）

教科書	オリジナルのe-learningテキストを使用	事前事後学習とその内容	準備物として、動画や写真を撮影してくる必要がある際には 必ず準備をしてくること
参考図書			
特記事項	動画を見ながら、iPadやスマホの操作を行うため、 自宅受講の場合は動画視聴用端末と操作用の端末を整える必要がある		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる	演習	情報リテラシー、滋慶学園グループのIT理解度テスト
2	DXリテラシー	演習	動画視聴、DX理解度テスト
3	生成AIの活用及び学校でのルールについて	演習	生成AIルールについて、生成AIの実践
4	Jimdoを使ってホームページの作成を体験する	演習	ホームページ作成
5	Canvaアプリ取得+Canva画像加工	演習	Canvaのアプリを取得し、動画のサムネイルを作成できる
6	Canvaを使って動画を作成する	演習	動画を作成方法＋音楽とリテラシー
7	Canvaを使って動画を作成する	演習	字幕の効果的なつけ方について学習する
8	定期試験		実技試験・指定された動画を作製し提出する

科目名	生物・化学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	千葉　忠成
		授業形態	講義		有		
（英）	Biology・Chemistry	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	木曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	大学院修了後、米国コロンビア大学で生体物質の研究、帰国後は東京大学医科学研究所で癌の研究、さらに製薬企業でヒトの全遺伝子解析に専従し、豊富な実務経験を有する。現在は日本歯科大学生化学講座で癌研究および講義を通じて学生の指導に当たっている。2012年より歯科衛生士選任教員（生物、化学、薬理学・歯科薬理学を担当）。
目的	医療人としての必要なスキルとは：1）よく聞き、そして学び続ける：柔軟性、自主性、継続性、2）基礎学力なくして、進歩なし：基礎学力、論理性、3）コミュニケーション能力は、医療人のたしなみ：基本的文章力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が必要となる。これらのことを得るためには医療の基礎知識を習得のために基礎生物学・基礎化学の学問の知識を得ることが目的となる。
科目概要	基礎生物学・基礎化学を学ぶことで、医療に関わる基本的な知識を得る。
到達目標	①基礎生物学・基礎化学の基礎知識・応用力を身につける。②社会科学から自然科学にわたる幅広い教養を身につけることにより，多面的に考える能力を身につける。③基礎生物学・基礎化学の知識を通じて、広範な教養、倫理観および安全・環境に関する知識の習得と、それらに基づき判断・実行できる能力の獲得する。④情報・知識をもとに、自主的に問題点を見出し、仕事を立案するためのデザイン能力および計画案に従い仕事を遂行し、問題点を解決する能力を身につける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	Teamsにより資料配布	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストと練習問題を復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	人体の概要	講義	人体の発生と成長 人体の構成 からだの各部の名称
2	細胞	講義	細胞の構造と働き 細胞膜 細胞分裂
3	遺伝	講義	染色体と遺伝子 DNAの複製 遺伝情報の伝達とタンパク質合成
4	無機化合物	講義	元素の構造を理解する 代表的な無機化合物の構造と特徴 温室効果
5	生体の無機化合物	講義	生体を構成している物質 生体を構成している微量物質 身の回りの有機化合物の構造と特徴
6	アミノ酸の構造と機能	講義	アミノ酸の基本構造 アミノ酸を分類 アミノ酸の化学特性
7	糖質の構造と機能	講義	タンパク質の結合様式 タンパク質の高次構造 タンパク質の構造と機能
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	解剖学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	春原　正隆
		授業形態	講義		有		
（英）	Anatomy	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	金曜日/6限：オンライン、7限：対面 木曜日/6限：対面、7限：オンライン

講師紹介	歯科医師、医学部大学院修了、学位：博士(医学)　歯科大学専任教員として長年にわたり、解剖学・口腔解剖学分野における豊富な実務経験を有するとともに、大学等での教育経験を有する。
目的	人体の正常構造を理解するために必要となる基本的解剖学用語を学び、全身における諸器官の3次元的構造について理解するとともに、国家試験合格に必須な知識を修得する。
科目概要	人体の正常構造を理解するため，全身の諸器官を系統別に分け，各系統ごとの形態的特徴および解剖学的基本知識を身につける。
到達目標	人体の正常構造を理解するために，全身の各系統ごとの形態的特徴および基礎的な知識を修得するとともに，諸器官の3次元的位置関係について理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版	事前事後学習とその内容	事後学習として、講義の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	配布資料以外の、講義中に使用した画像の写真撮影は不可とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	解剖学総論	講義	人体の構成・区分，解剖学用語、位置・方向用語，発生と成長について理解する
2	骨格系（頭蓋骨・体幹・体肢の骨）	講義	頭蓋骨・脊柱を構成する椎骨および胸郭・上肢・下肢・骨盤の構成および形態的特徴について理解する。
3	筋系（総論・頭頸部の筋）	講義	筋の形状，作用，神経支配，表情筋、咀嚼筋、浅頸筋，前頸筋，側頸筋，後頸筋の名称および作用について理解する。
4	筋系（体幹・体肢の筋）	講義	背部、胸部、腹部、上肢、下肢の筋の名称および作用について理解する。
5	内臓系総論・消化器系	講義	内臓の一般的構造および区分、消化器系を構成する臓器の形態的特徴および機能について理解する。
6	呼吸器系・泌尿器系	講義	呼吸器系と泌尿器系を構成する臓器の形態的特徴および機能について理解する。
7	生殖器系・内分泌系	講義	生殖器系と内分泌系を構成する臓器の形態的特徴および機能について理解する。
8	中間テスト		筆記試験（第7回までの講義内容全範囲から出題）
9	脈管系（総論・心臓）	講義	脈管系の構成、体循環・肺循環、心臓の構造と機能について理解する。
10	動脈系	講義	全身の動脈の走行および分布域について理解する.。
11	静脈系・リンパ系	講義	全身に分布する静脈の走行および分布域、各リンパ節の名称およびリンパの流路について理解する。
12	神経系（総論・中枢神経系）	講義	神経系の分類および中枢神経系を構成する脳・脊髄の形態的特徴と機能について理解する。
13	末梢神経系	講義	脳神経・脊髄神経，自律神経の構成および機能について理解する。
14	感覚器系	講義	感覚器の分類および形態的特徴・機能について理解する。
15	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	生理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	篠田　雅路
		授業形態	講義		有		
（英）	Physiology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	水曜日/6限:対面、7限:オンライン

講師紹介	歯学部卒業後、大学病院歯科口腔外科にて歯科診療に従事し豊富な実務経験を有する。生理学・神経科学をより深く学ぶために歯科医師を続けながら大学院へ進学。大学院修了後は米国ピッツバーグ大学にて疼痛メカニズムの研究に従事した。2020年より日本大学歯学部生理学講座主任教授。2022年より歯科衛生士学科非常勤講師。国内大学にて歯科臨床医の経験がある基礎歯学研究者として、臨床実地で必須な生理学の知識を教授する。
目的	正常な口腔機能の形成と維持を目標とする歯科医学の基礎知識を習得するために，全身の生理学について修得する。
科目概要	臨床実地で必須な生理学の知識
到達目標	歯科衛生士として必要な生体の正常な機能を理解するために、細胞の機能から個体の行動に至る各レベルにおける正常な働きとそのメカニズムを知る。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生士学シリーズ　人体の構造と機能1	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書	基礎歯科生理学　第7版		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	細胞機能と体液	講義	生体恒常性を維持することの意義 細胞内液と細胞外液の組成の違い 体液浸透圧と酸塩基平衡
2	神経	講義	神経の基本的構造と機能 神経の情報伝達機構
3	感覚・運動	講義	特殊感覚、体性感覚、内臓感覚の定義とその分類 興奮収縮連関
4	血液・循環	講義	血液の組成と量 止血のメカニズム 循環調節機構
5	内分泌	講義	ホルモンの種類とその作用
6	消化・吸収・排泄	講義	消化・吸収・排泄に関連する生理機能と神経回路
7	呼吸・自律神経	講義	呼吸の神経調節機序 呼吸の化学的調節機序 異常呼吸
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	栄養生化学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	有川　量崇
		授業形態	講義		有		
（英）	nutritional biochemistry	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	火曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	歯科医師，博士（歯学）として，大学にて豊富な実務経験を有する。現在、日本大学松戸歯学部衛生学講座に所属し，講義，研究に携わっている。また，女子栄養大学栄養科学研究所客員教授としても研究に携わっている。講義は，3名（有川量崇，鈴木陽香，長島輝明）で行う。鈴木は，歯科衛生士資格があり，長島は歯科医師として日本大学松戸歯学部に所属し，講義，研究に携わっている。
目的	口腔は食物の入口であり、食品はう蝕、歯周病という口腔疾患と深く関係する。口腔の健康を維持・増進する役割を担う歯科衛生士にとって、生化学による生命現象の理解と生化学を理解し，栄養学を学ぶ。
科目概要	生化学の基礎を学び、生命現象を生化学的に理解したうえで、栄養学の基礎を学び、生化学で学んだ知識や考え方を応用し栄養学を理解する。
到達目標	生命科学領域に関わる基本的知識を修得した上で、口腔が身体の一器官という認識の上に立ち、医学的見地から歯科衛生士として必要な口腔領域の生化学知識を身につける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	人体の構造と機能2「生化学・口腔生化学」ならびに3「栄養学」	事前事後学習とその内容	事前学習においては、当該予定の教科書を読むこと。事後学習では、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について写真撮影及び録音録画はその必要のある時に許可を得るようにしていただきたい。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯と歯周組織の生化学Ⅰ	講義	1. 歯と歯周組織 2. 結合組織 3. 結合組織を構成する細胞
2	歯と歯周組織の生化学Ⅱ	講義	1. 歯の無機成分 2. 歯の有機成分
3	硬組織の生化学	講義	1. 歯と骨の石灰化 2. 血清カルシウム調節 3. 歯の脱灰と再石灰化
4	唾液の生化学	講義	1. 唾液中の無機質・有機質 2. 唾液中の無機質の作用 3. 唾液中の有機質の作用
5	プラークの生化学Ⅰ	講義	1. プラークの形成過程 2. ステファンカーブ 3. プラークによるう蝕発症機構
6	プラークの生化学Ⅱ	講義	1. 食生活 2. う蝕予防方法
7	プラークの生化学Ⅲ	講義	1. 歯周疾患発症機構
8	中間テスト プラークの生化学Ⅳ		1. 授業　1～7　回までのまとめ　（MCQ試験） 2. 講義　口臭
9	栄養素の基礎知識Ⅰ	講義	1. 食生活と栄養 2. 栄養素の消化・吸収
10	食事摂取基準	講義	1. 食べ物のエネルギー 2. 基礎代謝 3. 食事摂取基準
11	栄養素の働きⅠ	講義	1. 糖質の栄養的意味 ①糖質の種類 ②糖質の働き
12	栄養素の働きⅡ	講義	1. タンパク質の栄養的意味 ①タンパク質の種類 ②タンパク質の働き
13	栄養の働きⅢ	講義	1. 脂質の栄養的意味 ①脂質の種類 ②脂質の働き
14	食生活と食品	講義	1. 国民の健康と栄養の現状 2. 国民の健康づくりにおける食生活改善の取組み
15	定期試験		MCQ試験 1. 授業　8～14　回までのまとめ（8割）　1～7回までのまとめ（2割）

科目名	歯牙解剖学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	金子　泰郎
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Anatomy	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	木曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	埼玉県所沢市にてラポール歯科医院を平成9年より開業している現役臨床歯科医師。家庭歯科医を基本理念にして、家族単位で乳幼児から老人まで診療し豊富な実務・臨床経験を有する。本校では歯科衛生士科の立ち上げから関与し、19期目となる
目的	歯科衛生士にとって基本中の基本である、歯牙について総合的に学ぶ講座が歯牙解剖学である。個々の歯ばかりでなく、歯群、歯列と上下の歯の咬合について広く深い知識を得る。
科目概要	歯科医学を学ぶための最も重要な基礎系科目の1つである。それぞれの歯の特徴、役割、正常と異常から鑑別（歯の特定）までを学ぶ。
到達目標	①個々の歯の種類、特徴を理解して、歯を特定することができるようになる　②臨床で使われる基本的名称及び歯式を理解する　③歯群、歯列および上下の歯の咬合を学ぶことで、歯の役割と重要性を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	事前事後学習とその内容	事後学習として、自作の練習問題等のプリントを作成しており、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯牙解剖学①　歯牙概論	講義	歯の機能、種類と歯式（ジグモンディ式とFDIシステム）を覚える 基本的名称と方向用語を覚える
2	歯牙解剖学②　歯の組織 口腔発生学　　歯の発生	講義	歯牙の基本構造を理解し、模式図が正確に書けるようにする 歯と歯周組織の形成と分化について理解し覚える 歯の萌出について理解する
3	歯牙解剖学③　左右鑑別と切歯	講義	隅角徴、彎曲徴を理解し、歯の左右の鑑別ができるようにする 上下顎の切歯の形態と特徴を理解し、特定できるようにする
4	歯牙解剖学④　側方歯群	講義	上下顎の側方歯群（犬歯と小臼歯）の形態と特徴を理解し、特定できるようにする
5	歯牙解剖学⑤　大臼歯	講義	上下顎の大臼歯の形態と特徴を理解し、特定できるようにする
6	歯牙解剖学⑥　乳歯	講義	乳歯の役割と特徴を理解し、覚える 永久歯との交換の仕組みを理解する
7	歯牙解剖学⑦　異常歯、歯列と咬合	講義	おもな異常歯の特徴を理解し、覚える 歯列と咬合の役割と働きについて理解し、覚える
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題／国家試験形式／80点満点）

科目名	口腔生理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	篠田　雅路
		授業形態	講義		有		
（英）	Oral Physiology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	水曜日/6限：対面、7限：オンライン

講師紹介	歯学部卒業後、大学病院歯科口腔外科にて歯科診療に従事する。生理学・神経科学をより深く学ぶために歯科医師を続けながら大学院へ進学。大学院修了後は米国ピッツバーグ大学にて疼痛メカニズムの研究に従事し、豊富な実務経験を有す。2020年より日本大学歯学部生理学講座主任教授。2022年より歯科衛生士学科非常勤講師。国内大学にて歯科臨床医の経験がある基礎歯学研究者として、豊富な実務経験を有する。臨床実地で必須な口腔生理学の知識を教授する。
目的	正常な口腔機能の形成と維持を目標とする歯科医学の基礎知識を習得するために，咀嚼器官である顎顔面口腔領域の運動，感覚，自律機能について修得する。
科目概要	臨床実地で必須な口腔生理学の知識
到達目標	運動機能としては顎，舌，顔面の運動機構，感覚機能としては顎顔面口腔領域の体性感覚，味覚，嗅覚のメカニズム，さらに自律性機能である唾液の働きを理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生士学シリーズ　歯・口腔の構造と機能	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書	基礎歯科生理学　第7版		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	生理学の復習	講義	基本的な感覚生理学 基本的な運動生理学
2	歯と口腔の体性感覚	講義	口腔感覚の発現に関与する神経回路 歯髄感覚、歯根膜感覚および口腔顔面痛の受容機構
3	味覚・嗅覚	講義	味蕾を構成する細胞の種類と機能，味蕾の分布様式 味受容体の種類とその特徴 味覚に関与する脳神経とその支配領域
4	咬合と顎運動	講義	末梢感覚の顎運動制御 顎運動発現に関与する神経回路
5	咀嚼・嚥下	講義	咀嚼・嚥下運動と咀嚼筋，顎関節，顔面筋などの協調 咀嚼・嚥下運動に関与する神経回路
6	吸啜・嘔吐・発声	講義	吸啜運動の意義 嘔吐動作および発生に関連する生理機能と神経回路
7	唾液	講義	唾液の生理作用 唾液の分泌機構と全身疾患との関連性
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯科保健指導論Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	ディーン　宮仁子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Health Guidance Theory Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	前半：金曜日/6限：オンライン、7限：対面後半：水曜日/6.7限：オンデマンド

講師紹介	フリーランスの歯科衛生士として小児から高齢者まで広く口腔健康管理に携わる。歯科衛生士養成機関での講師歴は15年以上。歯科医療現場、教育現場それぞれに豊富な実務経験を有する。
目的	人びとの多様なニーズに対して科学的根拠を持って専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う
科目概要	歯科保健指導の概要について学び、実践するための基礎知識の習得
到達目標	歯科保健指導（口腔の健康を維持管理し、患者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識及び技術）を理解する
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論　（歯科衛生士教本）	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科保健指導論の概要　健康の概念	演習	歯科保健指導の意義と特性　歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ 健康の定義　ヘルスプロモーション　口腔健康管理
2	口腔衛生管理①	演習	ブラッシング（歯ブラシ・ブラッシングの方法）
3	口腔衛生管理②	演習	その他の清掃法（フロッシング・歯間ブラシ・タフトブラシ）
4	口腔衛生管理③	演習	歯磨剤・洗口剤
5	口腔衛生管理④	演習	ブラッシング実習
6	食生活指導のための基礎知識①	演習	国民の健康と栄養の現状
7	食生活指導のための基礎知識②	演習	食品とう蝕の関連性
8	中間テスト	演習	1～7回の内容から筆記試験にて実施
9	食生活指導のための基礎知識③	演習	食品と歯科疾患の関連
10	保健行動支援のための基礎知識	演習	歯科保健指導に関わる理論と行動変容
11	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理①	演習	情報収集　医療面接
12	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理②	演習	全身の健康状態の把握　認知機能の把握　生活環境の把握　生活習慣の把握
13	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理③	演習	分析のためのデータ（口腔衛生状態の指数）
14	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理④	演習	分析のためのデータ（歯周疾患の指数）
15	定期試験		筆記試験　1～14回の内容から筆記試験にて実施

科目名	歯科予防処置論Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　愛美
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Prevention Measures Theory Ⅰ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	月曜日/6限：対面、7限：オンライン

講師紹介	歯科助手として歯科医療に従事しながら日本医歯薬専門学校夜間部を卒業。歯科衛生士免許を取得後、歯科診療所にて勤務し豊富な実務経験を有する。
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。 口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置を行うにあたり基礎的な知識理解する。
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社	事前事後学習とその内容	専門用語が多く出てくる科目であるため、事前にコマシラバスを確認し該当教科書ページに目を通しておくと、より理解を深める事ができる
参考図書	『歯周病学』 医歯薬出版株式会社		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科予防処置の概要	演習	歯科予防処置の概念と内容を概説できる 歯科予防処置の法的位置づけを説明することができる 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる
2	口腔の基礎知識	演習	歯・歯周組織と口腔の構造と機能を説明できる
3	口腔内の付着物・沈着物	演習	口腔内の付着物、沈着物の種類と成分を説明できる プラークの形成過程と成分を説明できる 歯石の形成過程と成分を説明できる
4	う蝕について （分類・原因・プロセス）	演習	う蝕とは何かを説明することができる う蝕の原因・発生・進行について理解する う蝕の予防法について理解し、う蝕予防処置の応用方法を挙げることができる
5	歯周病の基礎知識について	演習	歯周病の原因・発生・進行を理解する 歯肉炎と歯周炎の違いを挙げることができる 歯周疾患が全身に与える影響について理解する
6	歯・歯周組織の検査　（口腔内診査）	演習	口腔内の観察項目とポイントを列挙できる 検査使用器具の使用目的、種類、基本操作、測定部位等を理解する
7	歯・歯周組織の検査　（プロービング）	演習	歯周プローブの使用目的、種類、基本操作、測定部位を理解する プロービング圧を理解する 歯周プローブの目盛りの読み方を理解する
8	定期試験		筆記試験

科目名	歯科予防処置論Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　愛美
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Prevention Measures TheoryⅡ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	月・金曜日/6、7限目：対面

講師紹介	歯科助手として歯科医療に従事しながら日本医歯薬専門学校夜間部を卒業。歯科衛生士免許を取得後、歯科診療所にて勤務し豊富な実務経験を有する。
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。 口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置するにあたり基本的な歯・歯周組織の検査/スケーリングの知識と技術を身につける。
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社	事前事後学習とその内容	専門用語が多く出てくる科目であるため、事前にコマシラバスを確認し該当教科書ページに目を通しておくと、より理解を深める事ができる。また実習時には講義/実技の復習をして授業に参加する習慣をつけること
参考図書	『歯周病学』 医歯薬出版株式会社		
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出すること		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習オリエンテーション	演習	5F・6F実習室の使用方法を理解する 実習時の身だしなみについて理解をする
2	歯・歯周組織の検査 （プロービング）	演習	歯周プローブの使用目的、種類、基本操作、測定部位を理解する プロービング圧を理解する 歯周プローブの目盛りの読み方を理解する
3・4	手用スケーラーについて	演習	手用スケーラーの種類と使用目的を説明できる 手用スケーラーの構成、把持、固定、手指の動かし方や操作方法を理解する
5・6	シックルタイプスケーラー マネキン実習　1	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 上顎前歯部（唇側・舌側）のシックルタイプスケーラー操作
7・8	中間テスト シックルタイプスケーラー マネキン実習　2	演習	筆記試験 施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 下顎前歯部（唇側・口蓋側）　シックルタイプスケーラー操作
9・10	シックルタイプスケーラー マネキン実習　3	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 下顎右側臼歯部舌側　　下顎左側臼歯部頬側　シックルタイプスケーラー操作
11・12	シックルタイプスケーラー マネキン実習　4	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 下顎右側臼歯部頬側　　下顎左側臼歯部舌側　シックルタイプスケーラー操作
13・14	シックルタイプスケーラー マネキン実習　5	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 上顎右側臼歯部頬側　　上顎左側臼歯部口蓋側　シックルタイプスケーラー操作
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科診療補助論　Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	河野 せつ子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅰ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	木曜日/5.6限：対面

講師紹介	1995年より歯科助手として歯科医療に従事しながら歯科衛生士学校夜間部を卒業し歯科衛生士免許を取得、歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。現在は、歯科診療所と歯科衛生士学校の非常勤講師としての業務に従事している。
目的	専門的な歯科診療補助の業務の為に必要な基礎知識を習得する。
科目概要	歯科医療従事者として必要な知識を学ぶ。
到達目標	歯科医療従事者として実践にいかせる為に必要な知識を学ぶ。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事後学習として、小テストの見直し・復習をして知識の定着を行う
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療補助とは	演習	・歯科衛生士法における法的位置づけについて ・歯科衛生士の業務内容と歯科診療補助について ・他の医療職種についての診療補助業について
2	医療安全 インシデント報告	演習	・医療安全について ・医療事故や偶発事故発生時の対応法について ・リスクマネジメントについて ・法的責任について
3	環境整備	演習	・歯科診療室の環境、設備について ・歯科診療所における患者対応の基本 ・共同動作の概念について
4	院内感染 手指衛生	演習	・歯科診療における感染リスクや感染対策の分類 ・標準予防策について ・感染防護具について ・手指消毒について
5	院内感染予防法/防護具の装着 (メディコムジャパン)	演習	・手指衛生の手技 ・防護具の着用 ・グローブフィッティング
6	消毒法/滅菌法	演習	・各種滅菌、消毒の方法について
7	ハイリスク患者 医療廃棄物	演習	・ハイリスク患者とは ・使用器具、器材の管理方法 ・医療廃棄物の概要と具体的な分類
8	定期試験		筆記試験

科目名	歯科診療補助論　Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	河野 せつ子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	月・金曜日/1・2限：対面

講師紹介	1995年より歯科助手として歯科医療に従事しながら歯科衛生士学校夜間部を卒業し歯科衛生士免許を取得、歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。現在は、歯科診療所と歯科衛生士学校の非常勤講師としての業務に従事している。
目的	専門的な歯科診療補助の業務の為に必要な知識と技術を習得する。
科目概要	歯科診療補助業務を行うにあたって必要となる技術を習得する。
到達目標	それぞれの材料の取り扱い方法について理解し、適切な操作方法を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事前学習として、実習に関する操作方法の動画を視聴し、授業前に確認作業を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出することによって出席とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	印象材の取り扱い①	演習	・印象材の特徴、種類、用途について ・ハイドロコロイド印象材の取り扱い方法について ・アルジネート印象材の練和と管理方法を習得する
3・4	印象材の取り扱い②	演習	・シリコンゴム印象材の取り扱い方法について ・シリコンゴム印象材の練和と管理方法を習得する ・印象採得とその対応方法について
5・6	模型材の取り扱い	演習	・模型材の種類と取り扱い方法について ・石膏の練和方法を習得する ・石膏の注入方法を習得する
7・8	中間テスト WAX・咬合採得	演習	・筆記試験 ・ワックスの特徴、種類、用途について ・咬合採得法を習得する
9・10	合着材①	演習	・合着材の特徴、種類、用途について ・リン酸亜鉛セメントの練和を習得する
11・12	合着材②	演習	・カルボキシレートセメントの練和を習得する ・グラスアイオノマーセメントの練和を習得する ・酸化亜鉛ユージノールセメントの練和を習得する
13・14	合着材③実技試験/歯科衛生材料	演習	・指定された歯科用セメントを適切に取り扱うことが出来る ・各種歯科衛生材料の作成方法について習得する
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科衛生士概論	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	矢野 裕己
		授業形態	講義		有		
（英）	Outline of Dental Hygienist	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	水曜日/6限 ｵﾝﾗｲﾝ、7限:対面

講師紹介	保有資格：歯科衛生士、ホームヘルパー2級（現 介護職員初任者研修） 略歴：歯科診療所にて、障害者歯科、訪問歯科診療に携わるなど、豊富な実務経験を有する。2011年より歯科衛生士専任教員として着任し、多職種と連携ができる能力が必要であると考える。
目的	歯科衛生業務を実践して人びとの健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する。
科目概要	歯科衛生学の全体像を理解するための歯科衛生士の業務内容と取得知識のオリエンテーション。
到達目標	保健・医療・福祉に関わることの意義を見つけ、専門職として必要なことは何か、何を学ぶのか、また対象とする人のニーズの把握の仕方、さらに歯科衛生士業務の考え方や行動の仕方を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	最新歯科衛生士教本　歯科衛生学総論	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生学とは	講義	歯科衛生と健康 歯科衛生活動の対象 歯科衛生活動の領域
2	歯科衛生士の歴史/海外における歯科衛生士	講義	歯科衛生の誕生と経緯 歯科衛生の背景 海外の歯科衛生士の現状
3	歯科衛生活動の理論	講義	予防の概念 歯科衛生士の考え方（科学的思考）
4	歯科衛生過程	講義	歯科衛生過程とは 以下衛生過程活用の利点 歯科衛生過程の流れ
5	歯科衛生士法と歯科衛生業務	講義	歯科衛生士と歯科衛生士法 歯科衛生の役割 安全管理
6	歯科衛生士と医療倫理	講義	医の倫理と患者の権利 対象の自己決定権の尊重 インフォームド・コンセント
7	歯科衛生士の活動と組織	講義	歯科衛生活動の現状 歯科衛生士と組織
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯科材料学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	広田　一男
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Materials	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	水曜日/1限：対面、2限：オンライン

講師紹介	工学部大学院修士課程修了後、歯科器材メーカーにおいて歯科材料、歯科機械の研究開発に長年にわたって従事。研究開発の実務経験をベースにして歯科材料全般について十分な基本的知識がある。また、東京医科歯科大学歯学部、徳島大学歯学部などで非常勤講師として歯科材料学を教授し豊富な実務経験を有する。現在、鶴見大学非常勤講師。
目的	臨床で使用される歯科用材料についての基礎的な理解ができるようにする。それぞれの材料を臨床で使用する理由、材料の本質について基本から理解する。また、歯科材料は完成品をそのまま用いるのではなく、現場で練和等をおこなって臨床に適応することが多く、半製品の状態で供給される。使用時の操作が重要であり、その注意点も理解する。
科目概要	歯科材料の基本的特徴、使用目的を理解する。
到達目標	多くの種類の歯科材料が臨床で用いられている。医療を支えているのは薬であるが、歯科の診療行為を支えているのは材料ともいえる。診療行為と用いる歯科材料の関係を理解できるようにする。また、歯科材料は半製品として、練和など臨床応用する際の衛生士としての役割の大きい事も理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科材料の基礎（永末書店）	事前事後学習とその内容	事前学習として講義に先立ち、学習範囲の教科書を目を通すことが望ましい。事後学習としては講義終了後、重要事項について小テストを実施するので、理解不足の事項はさらに教科書や配付する資料で身に着けるように必ず復習する。
参考図書			
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科材料全般の分類 歯科材料の一般的所要性質 歯科材料の素材	講義	歯科材料には口腔内で使用される材料と口腔外で使用される材料がある 歯科材料は生体安全性が基本、その他の物性など所要性質について理解する。 歯科材料には有機材料、無機材料、金属材料など各種材料が使用されている。
2	印象材 模型用材料	講義	各種印象材（アルジネート印象材、シリコン印象材など）全般について。 石膏について理解する
3	合着・接着材	講義	リン酸亜鉛セメント、酸化亜鉛ユージノールセメント、カルボキシレートセメント、グラスアイオノマーセメント、接着性レジンセメントについて特徴を理解する。
4	歯冠修復材	講義	即時重合レジン、コンポジットレジン、グラスアイオノマーセメントについて理解する。
5	仮封材 インプラント用材料、ホワイトニング用材料 ファイバーポスト用材料	講義	臨床で使用されている仮封材は多くの種類があるが、全般を理解する。 インプラントシステムやホワイトニングシステムの概略について理解する。 ファイバーポストを中心にコア形成の概略について全般を理解する。
6	セラミック材料 CAD/CAM 歯科用金属材料	講義	セラミック材料について理解する。 CAD/CAMシステムについて全体を理解する。 金属材料について理解する。
7	再生材料、骨補填材 矯正材料 予防用材料、	講義	骨補填材、再生材料について理解する。 矯正材料について包括的に理解する。 シーラント材を中心に予防用材料について理解する。
8	定期試験		筆記試験

科目名	一般教養	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　愛美
		授業形態	演習		有		
（英）	Basic education	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	学年歴に記載

講師紹介	歯科助手として歯科医療に従事しながら日本医歯薬専門学校夜間部を卒業。歯科衛生士免許を取得後、歯科診療所にて勤務し豊富な実務経験を有する。
目的	日本医歯薬専門学校の学生・社会人・医療従事者としての知識やスキル、一般常識を身に着ける。
科目概要	専門分野の学習を能動的に行うために必要な基礎知識を身に付ける。
到達目標	日本医歯薬専門学校の学生・社会人・医療従事者としての知識やスキル、一般常識を身に着ける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事後学習として各授業で資料や課題を振り返り、到達目標に近づく努力をする。
参考図書			
特記事項	1年次の1年間を通して不定期にて実施をする 日程詳細は学年歴を参照		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	社会人・医療人としての身だしなみ	演習	臨地臨床実習について 臨地臨床実習への準備 身だしなみについて
2	社会人・医療人としての身だしなみ	演習	臨地臨床実習への準備 事前挨拶・電話の仕方・訪問のルール・言葉使い・日程調整相談 身だしなみチェック（電話がけ開始）
3	敬語の使い分け・文章	演習	敬語・謙譲語・丁寧語の使い方 話し言葉と書き言葉 文章の書き方・考察の書き方
4	実習前教育①	演習	臨地臨床実習への準備 臨床実習時の留意点
5	実習前教育②	演習	臨地臨床実習への準備 実習ノートの取り扱い
6	実習前教育③	演習	臨地臨床実習への準備 決意表明・目標の清書
7	実習前教育④	演習	臨地臨床実習への身構え・気構え・心構えを整える 頭髪チェック 登院式について
8	定期試験		筆記試験

科目名	キャリアデザイン	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	永井　里枝
		授業形態	演習		有		
（英）	Career design	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	不定期のため学年歴にて確認をすること

講師紹介	歯科衛生士として一般診療所にて豊富な実務経験を有する。2020年度より歯科衛生士専任教員となる。
目的	キャリアデザインを通じ、自分の将来像を明確にする。
科目概要	コース選択や社会人の基礎となる臨地臨床実習に向けての知識とスキルを身に付ける。
到達目標	なりたい歯科衛生士像を明確にし、実現するための知識とスキルを身につける。 2年時のコース選択に向けて、コースに関わる業界について知る。 登院式、臨地臨床実習に向けて身構え、気構え、心構えを持つ。 臨地臨床実習の中間振り返りと実習ノートの書き方の確認ができる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事前課題と事後課題を通して、将来像を明確化できるようにする。
参考図書			
特記事項	欠席した場合は後日振替の講義を受ける必要がある。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	後期スケジュールについて	演習	後期スケジュールの確認
2	臨床実習の概要	演習	臨床実習の目的や時期、規則について知る
3	歯科医療現場を知る①	演習	臨地臨床実習について 夜型のスケジュールについて
4	歯科医療現場を知る②	演習	臨地臨床実習について 臨地臨床実習への準備
5	歯科医療現場を知る③	演習	目指す歯科衛生士を明確にする
6	歯科医療現場を知る④	演習	臨地臨床実習について 臨地臨床実習への準備
7	登院式リハーサル	演習	登院式、臨地臨床実習に向けて身構え、気構え、心構えを持つ
8	定期試験		レポート

科目名	口腔解剖学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	金子　泰郎
		授業形態	講義		有		
（英）	Oral Anatomy	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	木曜日/6限：対面、7限：オンライン

講師紹介	埼玉県所沢市にてラポール歯科医院を平成9年より開業している現役臨床歯科医師。家庭歯科医を基本理念にして、家族単位で乳幼児から老人まで診療し豊富な実務・臨床経験を有する。本校では歯科衛生士科の立ち上げから関与し、19期目となる
目的	歯科衛生士にとっての基本である、口腔とその周囲について総合的に学ぶ講座が口腔解剖学である。口腔周囲の骨・筋肉・動静脈・神経などの肉眼レベルの構造と機能ばかりでなく、口腔組織学として細胞や各組織の顕微鏡レベルについても学び、広く深い知識を得る。
科目概要	歯科医学を学ぶための最も重要な基礎系科目の1つである。解剖学は人体の地図ともたとえられているので学ぶことは膨大な量になる。
到達目標	①口腔の基本を学び、各部の役割を理解する　②頭頸部の脈管系・神経系を覚え、理解する　③頭頸部の骨格系および筋肉・顎関節についてその構造と働きを覚える　④口腔各組織の構造と機能を理解し、基本的名称を覚える。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	事前事後学習とその内容	事後学習として、自作の練習問題等のプリントを作成しており、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔解剖学①　口腔の基礎	講義	口腔の機能と基本的な構造を理解し、各部の名称を覚える 口腔前庭および固有口腔の構造と役割を理解して覚える
2	口腔解剖学②　舌と唾液腺	講義	舌の構造とはたらきを理解して覚える 唾液腺の位置と役割を理解して覚える
3	口腔解剖学③　頭蓋	講義	頭蓋の構造と基本的名称を覚え、理解する
4	口腔解剖学④　口腔周囲の骨／咽頭・喉頭	講義	上顎骨、口蓋骨、下顎骨の構造を理解し、基本的名称を覚える 舌骨の構造、位置と役割を理解し、覚える 咽頭・喉頭の構造と機能を理解し、覚える
5	口腔解剖学⑤　口腔周囲の筋肉と顎関節	講義	表情筋・咀嚼筋の機能と役割を理解し、覚える 顎関節の構造と機能を理解し、覚える 下顎運動とその機能を理解し、覚える
6	口腔解剖学⑥　口腔周囲の動脈	講義	頭頸部の動脈の分布を理解し、歯への血流のルートを覚える
7	口腔解剖学⑦　口腔周囲の静脈とリンパ系	講義	頭頸部の静脈の分布を理解し、心臓から歯、歯から心臓への循環器系のルートを覚える 頭頸部のリンパの分布と働きを覚え、理解する
8	中間テスト　および　発生学		中間テスト（30分／30点満点）　試験終了後　発生学授業 発生学の基本的事項と流れを理解する 口腔の各組織の形成と分化について理解し覚える
9	口腔組織学①　3つの硬組織とエナメル質	講義	歯の3つの硬組織の特徴と違いを理解する エナメル質の構造と特徴を理解し、覚える
10	口腔組織学②　象牙質	講義	象牙質の構造と特徴を理解し、覚える
11	口腔組織学③　歯髄・セメント質	講義	歯髄の構造および特徴を理解し、覚える セメント質の構造と特徴を理解し、覚える
12	口腔組織学④　歯根膜・歯槽骨・歯肉	講義	歯根膜の構造および特徴を理解し、覚える 歯槽骨の構造と特徴を理解し、覚える 歯肉の構造と特徴を理解し、覚える
13	口腔解剖学⑧　口腔周囲の神経	講義	頭頸部の神経の特徴と働きを理解し、その分布を覚える 自律神経の働きと特徴を理解し、覚える
14	口腔解剖学⑨　三叉神経	講義	三叉神経の働きと走行について理解し、その分布を覚える
15	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題／国家試験形式／60点満点）

科目名	病理学・口腔病理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	浅野　正岳
		授業形態	講義		有		
（英）	Pathology/Oral Pathology	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	前半：火曜日/6限：オンライン、7限：対面 後半：月曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	浅野正岳：歯科医師、口腔病理専門医の資格を有し、2015年より日本大学歯学部教授として従事し、豊富な実務経験を有する。
目的	歯科臨床で遭遇する齲蝕、歯周疾患、口腔領域の嚢胞性疾患などに加え、口腔粘膜疾患や口腔癌、唾液腺疾患など多くの病態の気づきを実現させるためには、欠くことのできない極めて重要な知識である。これらの病態の確定には、病理組織検査や細胞診検査が有効であることを学び、臨床に生かすことを目的とする。また、いわゆる病理学総論の知識の重要性を認識する。
科目概要	病理学総論の知識に基づき、口腔内に発生する様々な疾患の基礎について学習する。
到達目標	病理学総論の知識に基づいた口腔内の病変の基礎的理解を目指す。問診結果、血液検査またはエックス線検査などにより得られた情報をもとに、歯科臨床で経験する様々な疾患の性質とその治療法などについて考察できるようになる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生士教本　病理学・口腔病理学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	講義前に教科書を読み、解らないところを講義で確認すると効率的である。また、短時間で良いので講義後復習すること。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	病理学序論・病因論・循環障害	講義	病理学の入門として病因論（内因・外因）　について学ぶ。また、うっ血、虚血、充血など生体内に生じる循環系の障害について理解する。
2	代謝障害　と退行性病変	講義	萎縮・変性・壊死などの退行性病変について学ぶ。また、糖尿病や高脂血症などの代謝障害について理解する。
3	増殖と修復・遺伝性疾患と奇形	講義	障害に対して生体がより積極的な反応を起こす結果生じる進行性病変について学習する。
4	炎症と免疫応答異常　（炎症）	講義	炎症は口腔内に生じる2大疾患としての齲蝕と歯周疾患の理解のために必須の知識である。歯科衛生士としての業務遂行に極めて重要な項目である。
5	炎症と免疫応答異常　（免疫応答異常）	講義	免疫学の基礎について学習し、アレルギーや自己免疫疾患などについて理解を深める。
6	腫瘍	講義	腫瘍の定義と分類さらに腫瘍の構成などについて学習する。また、上皮性異形成などについても理解する。
7	中間テスト		第1回から第6回の内容に関する出題
8	歯の発育異常・口腔領域の奇形	講義	歯の大きさや数、形、構造などの以上について学ぶ。また、口蓋裂などの奇形についても学習する。
9	歯の損傷と着色・付着物　う蝕	講義	咬耗症・摩耗症などの歯の損傷やプラークおよびう触などについて学習する。
10	象牙質・歯髄複合体の病変・根尖性歯周炎	講義	歯髄に生じる炎症や退行性病変、知覚過敏症などについて学習する。また、歯髄炎の継発症としての根尖性歯周炎について学ぶ。
11	歯周組織の病態	講義	歯科衛生士業務にとって必要不可欠な項目である歯周疾患の基礎について学習する。
12	口腔粘膜の病変・口腔癌	講義	口腔粘膜に生じる種々の疾患について学ぶ。また、口腔に最も多発する扁平上皮癌について知識を深める。
13	口腔領域の嚢胞と腫瘍	講義	嚢胞および腫瘍の定義を知り、それぞれの病変の基本的な構造などについて学習する。
14	顎骨の病変・唾液腺の病変・口腔領域の加齢変化	講義	顎骨骨髄炎、唾液腺腫瘍、歯髄や歯根膜における加齢変化などについて学習する。
15	定期試験		筆記試験　第7回から第14回までの内容からの出題

科目名	薬理学・歯科薬理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	千葉　忠成
		授業形態	講義		有		
（英）	Pharmacology/Dental Pharmacology	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	前半：水曜日/7限：オンデマンド　後半：月・金曜日/7限：ハイブリット

講師紹介	大学院修了後、米国コロンビア大学で生体物質の研究、帰国後は東京大学医科学研究所で癌の研究、さらに製薬企業でヒトの全遺伝子解析に専従し、豊富な実務経験を有する。現在は日本歯科大学生化学講座で癌研究および講義を通じて学生の指導に当たっている。2012年より歯科衛生士選任教員（生物、化学、薬理学・歯科薬理学を担当）。
目的	薬理学は、薬物を生体に与えた場合に生体が現す反応を勉学する科学であり、疾病の治療、予防、診断における合理的な薬物療法の基盤となる学問を学び、知識を得ることを目的とする。
科目概要	薬物は疾病の原因を取り除き、症状を和らげる目的で使用されるが、薬物の有用な作用だけでなく、副作用も認識したうえで、選択し投与しなくてはいけない。そのためにも薬の作用、身体での薬の働きを習得する。
到達目標	歯科衛生士教育における薬理学分野では薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解することが重要である。近年は高齢化に伴い、高血圧、心疾患、脳疾患などの循環器疾患のほかに糖尿病などの成人病をもち、多数の薬物を投与している患者さんが歯科を受診するケースが増えてきている。よって歯科以外での治療薬が歯科治療に与える影響や使用する薬の相互作用に関する知識を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	『疾病の成り立ちと回復糧の促進3 薬理学』医歯薬出版	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストと練習問題を復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	薬物の定義・作用	講義	薬物療法 疾病の回復の促進と薬 薬物の定義と分類
2	からだにおける薬物の働き	講義	薬物の機序作用 身体における薬物の働き 薬物の併用・連用、副作用
3	医薬品の分類と取り扱い	講義	薬物の分類・表示・保管 医薬品の開発 服薬指導
4	中枢神経系と薬	講義	中枢神経系の機能 中枢神経系に作用する薬物 全身麻酔薬
5	末梢神経系に作用する薬物	講義	末梢神経系に作用する薬物 自律神経系に作用する薬
6	末梢神経系に作用する薬物（局所麻酔薬）	講義	局所麻酔薬の作用機序 局所麻酔薬の構造と分類 局所麻酔薬の効果に影響を与える因子、副作用
7	中間テスト・解答解説	講義	筆記試験（講義内容全範囲から出題/1回目から6回目の講義から）
8	循環器系および呼吸系の薬物・作用・副作用	講義	循環系に作用する薬物 呼吸系に作用する薬物
9	血液に関連する薬物の分類と薬理作用	講義	血液凝固の仕組み 血液に関連する薬物
10	抗炎症薬の分類と薬理作用	講義	炎症の起こる仕組み 炎症に作用する薬
11	抗感染症薬の分類と薬理作用	講義	感染症の概念 抗感染症薬の種類と作用機序
12	消毒薬の分類と作用機序	講義	消毒薬の作用機序 消毒薬に影響を与える因子 消毒薬の効果判定
13	ホルモンの分類と作用機序	講義	ホルモンの分類と機能 糖尿病治療薬 骨粗鬆症治療薬
14	齲蝕予防・歯髄保存療法・感染根管治療・歯周治療・顎・口腔粘膜疾患に用いる薬物	講義	齲蝕の予防に用いる薬物 歯・歯髄疾患の治療に用いる薬物 歯周治療・顎・口腔粘膜疾患に用いる薬物
15	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題/7回目から14回目の講義から）

科目名	微生物学・口腔微生物学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	村松　淳
		授業形態	講義		有		
（英）	Microbiology/Oral Microbiology	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	前半：火曜日/6限：対面、7限：オンライン 後半：月曜日/6限：対面、7限：オンライン

講師紹介	保有資格：歯科医師、労働衛生コンサルタント（保健衛生）日本口腔リハビリテーション学会　指導医・認定医など　口腔細菌、胸腺細胞などの基礎研究、病院、産業保健などで歯科臨床、保健活動に従事し、豊富な実務経験を有する。2007年より東京歯科大学微生物学講座の支援で講義を開講した。講義分担担当者・濱田智恵子：歯科衛生士。歯科臨床を行いながら、人材育成に従事し豊富な実務経験を有する。口腔衛生指導へのアプローチを行っている。
目的	微生物学は基礎科目ではありますが、直接歯科臨床と関連する部分も多く、講義内容を歯科臨床に直接活かせるように知識を習得していただきたいと思います。（村松）微生物学がどのように歯科臨床に活かされてを伝えることで、必要な学びである事を再確認していただきます。（濱田）
科目概要	齲蝕・歯周病を含む口腔感染症の原因微生物、アレルギー、感染予防策などの基礎知識、口腔ケアの重要性などを学びます。
到達目標	前半では、医療職に共有の微生物学、免疫学の知識を習得していきます。これは将来他職種連携を行っていく上で必須です。また各学会の認定歯科衛生士を取得する際にも基礎知識として重要です。後半は口腔感染症、感染予防策など歯科臨床に関わる講義となります。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	最新歯科衛生士教本　微生物学【第2版】（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	講義の際ポイントとしてあげた部分をよく復習しておいて下さい。
参考図書	口腔微生物学−感染と免疫−（学研書院）		
特記事項	歯科保健指導 Answer 180濱田智恵子ほか（デンタルダイヤモンド社）、最新口腔微生物学　奥田克爾、石原和幸ほか		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	微生物学概論	講義	・微生物学は歯科衛生士にとってなぜ必要なのか考えてみる。・病原微生物の種類を覚える。・細菌の形態・構造とその機能を理解する。
2	細菌の観察法・生き方	講義	・細菌の観察法（培養法・顕微鏡、グラム染色などを理解する。・細菌の生き方（栄養・代謝・増殖・バイオフィルムなど）の概要を理解する。
3	感染論	講義	・微生物の病原性と宿主の抵抗性（自然免疫）の概要を理解する。・感染症の種類（日和見感染など）について理解する。・感染経路について理解する。
4	免疫学 1	講義	・免疫の種類（自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫、粘膜免疫）・抗原・抗体がどのようなものか理解する。・抗体の種類について理解する。
5	免疫学 2	講義	・抗原抗体反応（血清反応）について理解する。・能動免疫と受動免疫、ワクチンの種類について理解する。・自己免疫疾患・免疫不全症候群について理解する。
6	微生物学各論 1（細菌など）	講義	・病原細菌の種類と性質、代表的な毒素について理解する。・食中毒の機序について理解する。・スピロヘータ、マイコプラズマ、クラミジア、リケッチアの特徴を理解する。
7	微生物学各論 2（ウイルス・真菌・原虫・プリオン）	講義	・ウイルス・真菌・原虫の特徴を説明できる。・代表的なウイルス感染症について理解する。・プリオン感染症について説明できる。
8	中間テスト・化学療法、滅菌・消毒の概説	講義	・抗菌薬の作用機序について理解する。・スタンダードプレコーションについて理解する。・滅菌と消毒の違いを説明できる。
9	歯科医療に必要な化学療法、滅菌・消毒の知識、口腔微生物 1	講義	・消毒と滅菌の具体的な方法をあげられる。・口腔微生物の種類と性質について理解する。
10	口腔微生物 2	講義	・代表的な口腔微生物の分布について理解する。・プラークの形成機序、微生物叢の変化について理解する。・唾液・歯肉溝浸出液の感染防御因子について理解する。
11	口腔感染症 1（齲蝕など）	講義	・齲蝕の発生機序とその原因菌について説明できる。・歯髄炎・根尖性歯周炎の原因菌・免疫応答について理解する。
12	口腔感染症 2（歯周病など）	講義	・歯周病のリスク因子について理解する。・歯周病の原因菌について説明できる。・歯周病における歯周組織の破壊機序について理解する。
13	口腔感染症 3（関連する知識）	講義	・口腔細菌の全身に及ぼす影響について理解する。・口腔ケアの意義について理解する。・歯科衛生士と微生物学の関係について考えてみる。（濱田）
14	口腔感染症 4（その他の口腔感染症）	講義	・その他の口腔感染症（化膿性炎症、放線菌症、カンジダ症、口腔梅毒、ウイルス感染症など）について理解する。・歯科診療上注意すべき感染症・感染予防策について理解する。
15	定期試験		筆記試験

科目名	口腔衛生学Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　勝弘
		授業形態	講義		有		
（英）	Oral Hygiene Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	木曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	保有資格：歯科医師、博士（歯学）、日本口腔衛生学会認定医。日本歯科大学生命歯学部客員教授（衛生学講座）。1994年より勤務医、2000年より開業医・歯科医師会委員として地域歯科医療・歯科保健指導に従事し、豊富な実務経験を有する。同時に非常勤講師として1991年より歯科衛生士学生教育（現在3校にて口腔衛生学、衛生・公衆衛生学、衛生統計学を担当）、2000年より歯学部学生教育（講義・実習）にも携わる（2018年より客員教授）。
目的	歯科衛生士として保健指導、予防処置を行う上で、必要な基礎知識を習得する。
科目概要	保健指導・予防処置の専門職として、またその専門知識の備わった診療補助者としての基礎的情報の習得を口腔衛生学という包括的分野から行う。
到達目標	歯科衛生士の3大業務である保健指導、予防処置、診療補助のうち、歯科保健指導、歯科予防処置と関連する部分が多く、その基礎知識を身につけるとともに、その他の基礎科目、臨床科目に通じる内容も多いので関連づけて習得する。また講義時には歯科衛生士国家試験に向け、実際に出題された問題などを例示しながら具体的に重要なポイントなどを把握する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	保健生態学（医歯薬出版株式会社）	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	毎回スライド資料を配布する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔衛生学の概要と予防の3相5段階	講義	口腔衛生学の概要 健康の定義と予防の3相5段階 セルフケア・プロフェッショナルケア・コミュニティヘルスケア
2	歯・口の構造	講義	歯の種類と形態・構造 口腔の構造 唾液の機能
3	歯・口腔の発生と成長・発育	講義	歯・口腔の発生と成長・発育 歯・口腔の形成と栄養 歯・口腔の形成異常
4	歯・口腔の機能	講義	歯・口腔の機能 口腔機能低下症 口腔の健康と全身の健康の関わり
5	歯・口腔の付着物・沈着物	講義	ペリクル、プラーク、マテリアアルバ、歯石、舌苔、外来性色素沈着物、食物残渣　の特徴
6	口腔清掃	講義	口腔清掃法 口腔清掃に使用する器具 プラーク染め出し
7	ブラッシング法と歯磨剤・洗口剤	講義	各種ブラッシング法 不適切な口腔清掃による為害作用 歯磨剤・洗口剤
8	中間テスト わが国の歯科疾患の現況	講義	中間試験 歯科疾患の疫学 わが国の歯科疾患の現況
9	齲蝕の予防（1）	講義	齲蝕発生のメカニズム 齲蝕の発生要因 齲蝕活動性
10	齲蝕の予防（2）	講義	齲蝕の第一次～第三次予防 齲蝕の発生要因に対する予防法
11	フッ化物による齲蝕予防（1）	講義	フッ化物の齲蝕予防メカニズム フッ化物の代謝 フッ化物の毒性
12	フッ化物による齲蝕予防（2）	講義	フッ化物応用による齲蝕予防法 ライフステージに応じた齲蝕予防法 わが国のフッ化物応用の現状
13	歯周疾患の予防	講義	歯周疾患の症状と分類 歯周疾患の発症機序 歯周疾患の予防法
14	その他の疾患の予防（1）	講義	不正咬合、口内炎、口腔癌、歯・口腔の外傷の予防
15	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯科予防処置論Ⅲ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　愛美
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Prevention Measures TheoryⅢ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	月・金曜日/6、7限目：対面

講師紹介	歯科助手として歯科医療に従事しながら日本医歯薬専門学校夜間部を卒業。歯科衛生士免許を取得後、歯科診療所にて勤務し豊富な実務経験を有する。
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。 口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置するにあたり基本的なスケーリング/歯面研磨、口腔内洗浄、貼薬の知識と技術を身につける。
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社	事前事後学習とその内容	専門用語が多く出てくる科目であるため、事前にコマシラバスを確認し該当教科書ページに目を通しておくと、より理解を深める事ができる。また実習時には講義/実技の復習をして授業に参加する習慣をつけること
参考図書	『歯周病学』 医歯薬出版株式会社		
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出すること		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	シックルスケーラー　マネキン実習　6	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 上顎右側臼歯部口蓋側　上顎左側臼歯部頬側
3・4	シックルスケーラー　マネキン実習　7 歯面研磨、口腔内洗浄、貼薬　講義	演習	シックルタイプスケーラー操作総復習 歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる 歯面清掃機材の種類と使用方法を説明できる
5・6	歯面研磨、口腔内洗浄　実習	演習	歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる 歯面清掃機材の種類と使用方法を説明できる 歯面清掃・歯面研磨を実践できる
7・8	中間テスト キュレットタイプスケーラー　講義	演習	キュレットタイプスケーラーの種類、形状、特徴を理解する
9・10	キュレットタイプスケーラー マネキン実習　1	演習	キュレットタイプスケーラーの種類、形状、特徴を理解する 下顎前歯部（唇側・舌側）・上顎前歯部（唇側・口蓋側）
11・12	キュレットタイプスケーラー マネキン実習　2	演習	キュレットタイプスケーラーの種類、形状、特徴を理解する 下顎臼歯部
13・14	キュレットタイプスケーラー マネキン実習　3	演習	キュレットタイプスケーラーの種類、形状、特徴を理解する 上顎臼歯部
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科予防処置論Ⅳ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　愛美
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Prevention Measures Theory Ⅳ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	火・金曜日/6、7限目：対面

講師紹介	歯科助手として歯科医療に従事しながら日本医歯薬専門学校夜間部を卒業。歯科衛生士免許を取得後、歯科診療所にて勤務し豊富な実務経験を有する。
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。 口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置するにあたり基本的なスケーリング/歯面研磨、口腔内洗浄、貼薬の知識と技術を身につける。
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社	事前事後学習とその内容	実習で使用する教材の忘れ物、実習時の身だしなみ不備で授業に参加ができない場合は見学となるため、事前にコマシラバスを確認し、忘れ物などの準備不足がないようにすること
参考図書	『歯周病学』 医歯薬出版株式会社		
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出すること		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	パワースケーラー・歯面清掃器	演習	超音波スケーラー、エアスケーラー、歯面清掃器の使用目的や特徴、使用時の留意点 準備・後片付けの方法
3・4	相互実習　講義	演習	標準予防策、感染防止の3原則 相互実習における感染基本対策、ルール、実習当番の役割 臨床現場における感染対策の重要性
5・6	相互実習　講義	演習	口腔内観察の項目 健康な歯肉の状態、異常 歯周検査やPCRなどの記録
7・8	中間テスト 相互実習に向けたグループワーク	演習	筆記試験 相互実習における役割理解のためのグループワーク
9・10	相互実習　口腔内観察　エキスプローラー	演習	相互実習における感染基本対策、ルールの実践 口腔内観察、エキスプローリングの実践 感染対策を遵守した後片付けの実践
11・12	相互実習　プロービング	演習	相互実習における感染基本対策、ルールの実践 口腔内観察、エキスプローリング、プロービングの実践 感染対策を遵守した後片付けの実践
13・14	相互実習　プロービング	演習	相互実習における感染基本対策、ルールの実践 口腔内観察、エキスプローリング、プロービングの実践 感染対策を遵守した後片付けの実践
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科保健指導論Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	ディーン 宮仁子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Health Guidance Theory TrainingⅡ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	水曜日/6限:オンデマンド

講師紹介	フリーランスの歯科衛生士として小児から高齢者まで広く口腔健康管理に携わる。歯科衛生士養成機関での講師歴は15年以上。歯科医療現場、教育現場それぞれに豊富な実務経験を有する。
目的	人びとの多様なニーズに対して科学的根拠を持って専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う。
科目概要	歯科保健指導の概要について学び、実践するための基礎知識の習得。
到達目標	歯科保健指導（口腔の健康を維持管理し、患者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識及び技術）を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 （歯科衛生士教本）	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔の基礎知識	演習	口腔機能　摂食嚥下のしくみ
2	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理⑤	演習	口腔の機能的問題の把握
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	妊産婦期の口腔健康管理
4	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	乳児期～幼児期の口腔の特徴と口腔衛生管理
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	乳児期の口腔機能と食生活指導
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	幼児期の口腔機能と食生活指導
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	学齢期の口腔健康管理　口腔機能発達不全症に関する指導
8	中間テスト	演習	筆記試験　1～7回の内容から出題
9	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	青年期　禁煙指導
10	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	成人期の口腔衛生管理
11	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	成人期の食生活指導　非感染性疾患
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	老年期の口腔衛生管理および口腔機能管理
13	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	老年期の食生活指導
14	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	要介護高齢者に対する口腔健康管理
15	定期試験		1～14回の内容から出題

科目名	歯科診療補助論　Ⅲ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	河野 せつ子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅲ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	月・金曜日/1・2限：対面

講師紹介	1995年より歯科助手として歯科医療に従事しながら歯科衛生士学校夜間部を卒業し歯科衛生士免許を取得、歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。現在は、歯科診療所と歯科衛生士学校の非常勤講師としての業務に従事している。
目的	専門的な歯科診療補助の業務の為に必要な知識と技術を習得する。
科目概要	歯科診療補助業務を行うにあたって必要となる技術を習得する。
到達目標	それぞれの材料の取り扱い方法について理解し、適切な操作方法を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事前学習として、実習に関する操作方法の動画を視聴し、授業前に確認作業を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出することによって出席とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	共同動作①(マネキン)	演習	・共同動作の概念について ・ポジショニングについて ・バキューム、ライティングの基本動作を習得する
3・4	共同動作②(マネキン)	演習	・フォーハンドシステムの基本動作を習得する ・一連の基本動作を行いながら精密印象採得を実施する
5・6	仮封材	演習	・仮封材の特徴、種類、用途について ・仮封材の取り扱い方法について ・各部位に応じた仮封方法を習得する
7・8	中間テスト 仮封材実技試験	演習	・筆記試験 ・指定された仮封材を適切に仮封ことが出来る
9・10	共同動作③(相互実習)	演習	・相互実習における心構えについて ・実習室の使用方法について ・相互実習において共同動作を実施する
11・12	スタディーモデル作製①(相互実習)	演習	・共同動作のもと、下顎の概形印象採得を実施する
13・14	スタディーモデル作製②(相互実習)	演習	・共同動作のもと、上顎の概形印象採得を実施する
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科診療補助論Ⅳ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	多賀谷　絵美
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅳ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	集中講義

講師紹介	2000年歯科衛生士免許取得、歯科医院勤務の傍ら障害者・児診療に従事するなど豊富な実務経験を有する。。2006年より専任教員として勤務。 2013年より総合病院にて歯科口腔外科の立ち上げ、病棟での重症患者の口腔ケアに従事。2022年より本校専任教員として勤務。
目的	臨地臨床実習に臨むにあたり必要な、技術・知識の習熟及び記録化を学び、臨床現場での応用的学習の基礎を身に付ける。
科目概要	相互実習を通じて歯科診療の流れ、対象者に応じた対応法を身に着ける
到達目標	歯科診療時の歯科衛生士としての役割および共同動作の必要性を理解し、患者の安全を考え、診療補助を円滑に行うための知識、技術、態度を習得する。 患者の置かれている立場を理解し、対象者にあった対応を実施し、常に配慮した声掛けを実施する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物があった場合小テストは0点、実習着忘れ等実習の安全が確保できないと判断した場合実習は参加できず見学とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	共同動作①	演習	・相互実習において共同動作を実施する ・配慮の必要な患者について
2	共同動作②	演習	・相互実習において共同動作を実施する ・配慮の必要な患者について
3	歯科材料の取り扱い(セメント練和)	演習	・各種セメント練和の知識の復習 ・各種セメント練和の技術復習
4	歯科材料の取り扱い(セメント練和)	演習	・各種セメント練和の知識の復習 ・各種セメント練和の技術復習
5	歯科材料の取り扱い(印象材と模型材)	演習	・各種印象材の知識の復習 ・各種印象材の技術復習
6	歯科材料の取り扱い(印象材と模型材)	演習	・各種印象材の知識の復習 ・各種印象材の技術復習
7	臨床実習概要・実習内容の記録化	演習	・う蝕の進行度と処置法について ・臨床実習における見学、メモの取り方について ・実習日誌・レポートの記入方法について
8	定期試験		筆記試験(1年次歯科診療補助論の全範囲から出題)

科目名	歯科臨床概論	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	近藤　健示
		授業形態	講義		有		
（英）	Dentistry　Clinical　Outline	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	火曜日/6限：オンデマンド、金曜日/6限：オンデマンド

講師紹介	日本歯科大学短期大学　教授　　日本歯科大学名誉教授　　日本医歯薬専門学校　顧問 歯科医師として長年に渡り、主に保存修復分野にて臨床現場に立ち、豊富な実務経験を有する。
目的	臨床実習を行う前に歯科診療の概要を理解し臨床実習に備える。
科目概要	歯科臨床全般について概要を理解する。
到達目標	臨床実習を行う前に歯科臨床の概要を理解し、今後の歯科臨床に対応できるように理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	歯科衛生士のための　歯科臨床概論　　第2版　（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科臨床とは何かを理解する	講義	歯科臨床の場、そこに係る人を知り、診療所の概要、業務を理解する
2	歯科診療におけるライフステージ、診療の流れを理解する	講義	歯科診療の於けるライフステージ、審査、検査、前処置を理解する
3	小児歯科、歯科矯正治療の概要	講義	小児歯科における口腔機能、先天異常、齲蝕予防処置、不正咬合の矯正治療を理解する
4	口腔外科治療の概要	講義	口腔の外傷、抜歯、口腔粘膜疾患について処置の流れについて理解する
5	歯科保存治療の概要	講義	歯科保存治療の保存修復、歯内療法、ホワイトニングについて理解する
6	歯周治療、補綴治療の概要	講義	歯周病の基本、外科治療、メインテナンスについて理解する　　歯の喪失の処置の概要を理解する
7	障害者歯科、高齢者歯科の概要	講義	障害者、高齢者治療の概要、摂食嚥下障害の対応、周術期のケア、訪問診療について理解する
8	歯科治療概要のまとめ 定期試験		筆記試験　歯科臨床概論の復習

科目名	栄養指導	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	有川　量崇
		授業形態	講義		有		
（英）	nutrition　education	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	火曜日/1限：オンライン、2限：対面

講師紹介	歯科医師，博士（歯学）として，大学にて豊富な実務経験を有する。現在、日本大学松戸歯学部衛生学講座に所属し，講義，研究に携わっている。また，女子栄養大学栄養科学研究所客員教授としても研究に携わっている。講義は，3名（有川量崇，鈴木陽香，長島輝明）で行う。鈴木は，歯科衛生士資格であり，長島は歯科医師として日本大学松戸歯学部に所属し，講義，研究に携わっている。
目的	生命科学領域に関わる基本的知識を修得した上で、口腔が身体の一器官という認識の上に立ち、医学的見地から歯科衛生士として必要な栄養の知識を身につけ，保健指導での実践に用いる。
科目概要	栄養生化学で得た知識や考え方を基に，臨床での栄養指導への応用を学ぶ。
到達目標	栄養学に関する正しい知識を学び、身につける。食生活と健康について理解し、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学　医歯薬出版株式会社	事前事後学習とその内容	事前学習においては、当該予定の教科書を読むこと。事後学習では、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書	人体の構造と機能3　栄養　医歯薬出版株式会社		
特記事項	講義および提示資料について写真撮影及び録音録画はその必要のある時に許可を得るようにしていただきたい。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	栄養素の働きⅣ	講義	1. ビタミンの栄養的意味 ①ビタミンの種類 ②ビタミンの働き
2	栄養素の働きⅤ	講義	1. ミネラルの栄養的意味 ①ミネラルの種類 ②ミネラルの働き
3	栄養素の働きⅥ	講義	1. 水の栄養学的意味 2. 食物繊維の栄養的意味
4	食べ物と健康	講義	1. 食品成分表 2. 食事バランスガイド 3. 食べ物の物性
5	食生活と健康Ⅰ　成長期における栄養	講義	1. 成長期における栄養 ①乳児期　②学童期　③思春期
6	食生活と健康Ⅱ　成人期における栄養	講義	1. 成人期（妊娠期含む）における栄養
7	食生活と健康Ⅲ　高齢期における栄養	講義	1. 高齢期における栄養
8	定期試験		MCQ・筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	臨地・臨床実習Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　愛美
		授業形態	臨地実習		有		
（英）	Clinical　Training　Ⅰ	時間数	135	授業回数		開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	3			曜日/時間	月～金

講師紹介	歯科助手として歯科医療に従事しながら日本医歯薬専門学校夜間部を卒業。歯科衛生士免許を取得後、歯科診療所にて勤務し豊富な実務経験を有する。
目的	医療現場を体験することにより、 ①歯科医療及び歯科保健活動をより深く理解する。②歯科衛生士として必要な専門的な知識・技術を学ぶ。③対象者のニーズに追う舌コミュニケーション方法を習得する。
科目概要	実際の患者様への対応や処置など能動的な学びを行う。
到達目標	主として見学を中心とした実習とし、臨床現場における歯科診療の流れを理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	実習前教育で臨地実習の準備を行いと実習後教育で振り返りを行う
参考図書			
特記事項	評価および規則の詳細については「臨床実習について」を参照		

授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習前教育	講義	臨地臨床実習の目的・目標を把握し、自己紹介書の記入、事前訪問など臨地臨床実習に望むための気構え・身構え・心構えを身につける。
2	臨地実習	臨地実習	各実習施設にて臨地。臨床実習を行う。
3	実習後教育	講義	臨地臨床実習の振り返りを行い、各施設の情報共有を行うことで学びを水平展開する。
4			
5			
6			
7			
8			